「じょうてつさん～ 定山渓鉄道の足跡を訪ねて」

会報・ホームページ委員　菊池　栄仁

みなさん「じょうてつ」と聞くと、札幌近郊にお住まいの方や札幌に馴染みのある方は、札幌市南区方面を主に走る「じょうてつバス」を思い浮かべるのではないでしょうか。

でもそれは現代の姿であります。

その昔、札幌駅と定山渓温泉を結ぶ鉄道があり、電車が走っていたなんて、想像がつきますか？

電車が今も走っていたら、週末の仕事帰りは、ひと風呂入りに、ビールを片手に電車に飛び乗っていたかもしれません。

今回の特集は、その定山渓鉄道の足跡を追ってみましょう。

「じょうてつ」はご存じかもしれませんが、定山渓鉄道を定鉄（じょうてつ）と略したものです。

定山渓鉄道は、大正７年１０月に白石・定山渓温泉間で開業しました。

後に線路は、苗穂の方に接続となりましたが、駅は札幌方面から行くと、苗穂から国鉄旧千歳線を通り、東札幌を起点に、豊平、澄川（北茨木）、慈恵学園、真駒内、緑ヶ丘、石切山、藤の沢、十五島公園、下藤野、東簾舞、簾舞、豊滝、滝の沢、小金湯、一の沢、錦橋、白糸の滝、定山渓となっておりました。

線路の総延長距離は約２７キロメートルありました。（写真1参照）

写真1：定山渓鉄道路線図（昭和４４年当時）

主な駅についてですが、東札幌駅は、現在札幌市白石区に所在する商業施設ラソラ札幌のある辺りで、豊平駅は、初め東光ストア豊平店付近にありましたが、その後国道３６号線沿いの札幌市豊平区豊平４条９丁目付近に移り、豊平駅には定山渓鉄道の本社がありました。

現在ではマンションが立ち並んでいます。（写真２，３参照）

写真2：定山渓鉄道営業当時の豊平駅

写真3：現在の定山渓鉄道旧豊平駅跡地付近

特別企画 バックナンバーはコチラ

写真4：現在の石山陸橋付近の定山渓鉄道路線

写真5：現在の石山陸橋付近
（旧定山渓鉄道線路跡）

写真6：簾舞郷土資料館・旧黒岩家住宅
（旧簾舞通行屋）

写真7：簾舞郷土資料館　黒岩裕館長

写真8：定山渓鉄道営業当時の東簾舞駅

写真9：現在の定山渓鉄道旧東簾舞駅跡地付近

ここには札幌市電が接続しており、札幌の中心部に行く買い物客などの乗り換えでにぎわっていたようです。

豊平駅から澄川駅を通って、真駒内方面に進んで行くのですが、何か聞き覚えのある駅名ではないですか。お気付きの方もいらっしゃると思います。

そうなんです。札幌市営地下鉄南北線と同じルートなのです。

地上と高架の違いはありますが、正確には、定山渓鉄道の廃線跡に札幌市営地下鉄が走っていることになります。

現在の札幌市営地下鉄は真駒内駅で終点ですが、当然ながら定山渓鉄道はその後も定山渓まで線路が続いておりました。

ちなみに、定山渓鉄道の真駒内駅は、札幌市営地下鉄真駒内駅より自衛隊前駅寄りにあり、現在の地下鉄真駒内駅の定山渓方面には緑ヶ丘駅がありました。

その先は、石山陸橋を過ぎて、現在の国道２３０号線とほぼ平行に線路は続いていきます。（写真４，５参照）

定山渓鉄道の東札幌・定山渓間のほぼ中間に位置するのが簾舞地区になります。

簾舞地区には、東簾舞と簾舞の二つの駅がありました。

定山渓鉄道が走っていた昭和30年代から昭和４０年代当時の様子を、簾舞郷土資料館・旧黒岩家住宅（旧簾舞通行屋）の黒岩裕（くろいわゆたか）館長から話をお伺いすることができました。（写真６，７参照）

本題の前に、旧簾舞通行屋が定山渓鉄道の駅だったのかというと、「通行屋」というだけあってもそうではありません。

「通行屋」とは、当時の交通手段であった馬の乗り継ぎ場所であり、開拓者や旅行者の宿泊場所であったところです。似たものに「駅逓所」があり、「通行屋」とほぼ同じですが、「駅逓所」は郵便の仕事も行うところでした。

名前に「駅」や「通行」が付いていても、鉄道の駅ではないのです。

黒岩館長は、簾舞で生まれ育ち、代々黒岩家のご自宅で、現在は札幌市の有形文化財に指定されている旧簾舞通行屋を守り続けられています。

この旧簾舞通行屋のそばを定山渓鉄道が走っており、最寄りに東簾舞駅がありました。（写真８，９参照）

黒岩館長によれば「列車が来る時間が分かっていて、走る音や汽笛は、早朝は目覚まし代わりなど時計代わりにしておりました。定山渓鉄道は、住民の足というだけでなく、生活の一部であったのです。」とのことでした。

簾舞地区について黒岩館長から詳しくお伺いしたところ、簾舞駅のそばには農協があり、夏は米やりんご、野菜などの農産物を、木材の集積場所もあったことから冬は材木を貨車に積んで運んでいました。

簾舞駅には引込線もあって、実は定山渓鉄道では貨物も扱っていたのです。

定山渓鉄道で定山渓温泉に行く機会はあったのかというと、当時はゆとりがないとなかなか行く機会がなく、札幌方面に行くのがほとんどだったそうです。

簾舞駅から定山渓方面に向かって行きますと、滝の沢駅は、八剣山登山口近くにあり、また昭和２７年に全日本クラスのスキー大会が開かれてできた黄金山スキー場もあり、かなりのにぎわいをみせておりました。

小金湯駅は、正に小金湯温泉の玄関口、一の沢駅は発電所、錦橋駅は豊羽鉱山への専用線が分かれており、山から切り出した木材を集める集木場もありました。

錦橋を出ると線路は、豊平川に沿って、白糸の滝駅に至り、さらに定山渓へと至るルートで、現在国道２３０号線沿いにある大型ホテルの南西側に定山渓駅がありました。

（写真１０～１２参照）

写真10：定山渓鉄道営業当時の定山渓駅

写真11：定山渓鉄道営業当時の定山渓駅駅名標

写真12：現在の定山渓鉄道旧定山渓駅跡地付近

写真13：現存する定山渓鉄道タブレット閉塞機

定山渓鉄道は単線（上り下りで線路一本を共有）でしたので、駅と駅との間で列車が行き交うことができません。

上下の列車が不規則に勝手に走ってしまっては、衝突してしまいます。

そこで、タブレットという通行手形を通行を許可する列車にだけ渡して一区間一つの列車しか走られないようにするのです。

タブレットというと電子端末の方を思い浮かべるでしょうが、鉄道では昔からタブレットを使っていたのです。

タブレットの受け渡しの際に、隣の駅同士で連絡を取り合うのに使うタブレット閉塞機です。（写真１３参照）

ちなみに北海道内では、１８年前に最後までタブレットを使っていた区間でタブレットが廃止されております。

黒岩館長によれば、定山渓鉄道は一本の線路で

・「日常」　～　通勤・通学・住民の足
・「観光」　～　温泉利用者
・「産業」　～　豊羽鉱山からの鉄鉱石、沿線山間部からの木材等貨物輸送

といった様々な側面を持って沿線と密接に関係しており、沿線住民や利用者にとって、必要不可欠な存在であったということでした。

当時の運転士の藤原光男さんから当時のことを聞いてまいりました。

藤原さんは定山渓鉄道で約１５年ほど運転士として乗務された方です。

当時、定山渓鉄道の電車は苗穂駅まで乗り入れており、北海道内ではＳＬ（蒸気機関車）がまだ主役で走っていた時代、電車運転士というのは花形だったそうです。

藤原さんによると「運転士は１２，３名ほどいて交代で乗務しておりました。通勤や通学の方とはいつも顔を合わせるので、藤原さんと名前で声を掛けられるくらいでした。それだけ地域の方々から親しまれていたのだと思います。」とのことで、さらに「通勤、通学の方や沿線の病院に通われている方が駅に向かっているのが運転席から見えたら、発車時間が多少過ぎても待ってました。」とお客さん第一の鉄道だったそうです。

定山渓方面の一の沢駅の近くには牧場があり、そこの牛が線路を歩いていたりして、ぶつからないよう、ゆっくり後ろをついていったこともあったそうです。

また、慈恵学園駅（※慈恵学園は現在の札幌新陽高校です。）沿線の街づくりにも力を入れていたそうで、現在一帯は閑静な住宅街となっています。

このように沿線と密接な関係であった定山渓鉄道は、住民の方々から

「じょうてつさん」と親しみをこめて「さん」付けで呼ばれていたとのことでした。

北海道外では、箱根温泉につながる小田急電鉄や箱根登山鉄道のように温泉地へ向かう鉄道が健在しているところもあります。

定山渓鉄道については、残念ながら昭和４４年10月31日をもって廃止となりました。

昭和４０年代のモータリゼーション（自動車化）の波と、それに伴う道路の整備で中山峠が通行しやすくなったことによって、定山渓が終着地で留まるところではなく、通過地点になったしまったことも一因です。

自動車のCO_2排出の環境問題への対応や、ゆとりある時間を過ごしたいという生活様式の多様化など、もしも定山渓鉄道が廃止にならずに現在も残っていたなら、人気の鉄道路線になっていたのかもしれません。

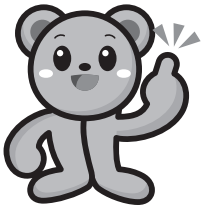
たくさんの乗客でにぎわう定山渓鉄道に今日も思いをはせております。

私を含め、鉄道廃線跡を旅して歩き、列車が走っていたころに思いをはせる鉄道好きの方は結構おります。「廃線鉄」とでも言いましょうか。

今回は定山渓鉄道をご紹介させていただきましたが、北海道内には、小樽市総合博物館、三笠鉄道記念館といった鉄道関連施設や、タウシュベツ川橋梁（上士幌町）、旧標津線奥行臼駅跡（別海町）、未成線（※予定や計画された路線で実際は開業しなかった路線）の旧戸井線アーチ橋（函館市）などの鉄道遺構が今も全道にはたくさんあります。

実はみなさんのご自宅の近くに、何気なく鉄道に関連するものがあるかもしれません。

散歩がてらでも少し気にして探してみてください。これでみなさんも晴れて「鉄ちゃん」の仲間入りです。



【簾舞郷土資料館・旧黒岩家住宅（旧簾舞通行屋）】

所 在 地　札幌市南区簾舞1条2丁目
電話番号　011－596－2825
交通手段　地下鉄真駒内駅より定山渓方面行きバス乗車
　　じょうてつバス「国立札幌南病院前」下車　徒歩2分
　　じょうてつバス「東簾舞」下車　徒歩5分
休 館 日　毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日、年末年始（12/29 ～ 1/3）
観覧時間　午前9時～午後4時
※開館日等は新型コロナウイルスの感染状況によって変わる可能性があります。

【参考文献】「定山渓鉄道」久保ヒデキ著　北海道新聞社発行